

「第2次木津川市環境基本計画（案）」に係るパブリックコメント実施結果（ご意見内容と市の考え）

- 1.公表期間 令和3年3月1日から令和3年3月30日まで
- 2.計画（案）に対する意見の提出結果 3人（20件）
- 3.ご意見内容と市の考え方

N0	該当ページ	種別	ご意見内容	市の考え方	反映
1	—	提案	気候非常事態宣言について説明し、市として宣言すること。	P 2 2（1）の右側4～7行目のとおり、当市におきましても、気候変動に関して非常事態と言っても過言ではないような危機的状況であることを認識しており、これを踏まえた上で、P 2 2～2 4に記載した脱炭素に向けた取り組みを実践していくとともに、“ゼロ・カーボンシティ”の宣言に向けた準備を進めます。	—
2	—	提案	再生可能エネルギーの市としての推進政策を記述してほしい。例えば、地域電力会社の設立などの検討。	地域電力会社に関する具体的な施策は記述しておりませんが、再生可能エネルギーについては、主にP 2 3の「再生可能エネルギーの普及促進」や「地産地消の推進」において、市の取組みの方向性をお示ししております。	—
3	—	意見	木津町の鹿川と、山城町の萩の谷川にある親水公園は、7月になると草が茂りマムシのことも考えると活動するにもためられるため、草刈りを実施してほしい。	鹿川の「ふれあい広場」は本市の管轄で、萩の谷川の親水公園は京都府の管轄となっております。ご要望のことについて、担当部局に情報提供いたします。	—
4	—	意見	木津川市自然環境ハンドブックを作成してほしい。環境団体の高齢化、自然環境の悪化、開発が進むなか、こうしたハンドブックの作成を進めることは急務である。	ご要望として検討いたします。	—
5	P 6	提案	「（2）①地形・地質」について、木津川市全体の地質に関する記述を書き加えるべきでは。 （例） 山城町、加茂町の山地は花崗岩からできているが、もろい花崗岩帯から風化により砂礫・真砂土となり天井川形成の原因となっている。また、木津川に運搬され、砂の河川敷を形成し、浜畑として利用されている。また、山城町、加茂町の山地には農業用水として数多くのため池が作られている。木津町地域は大阪層群というシルト・砂・礫層から形成されている。	ご意見を踏まえて、左側4行目から次のとおり追記しました。 木津川周辺の地質は砂やシルト等から形成されており、それを挟んで南北には花崗岩質岩石や砂層等があります。また加茂町法花寺野のマンガン鉱物は、京都府レッドデータブックカテゴリーの「消滅寸前」に区分されています。	○
6	P 9	意見	「③河川の水質」の左側6～8行目「平成30年度の水質調査結果は、20河川のいずれもD型類型の環境基準（8mg/L）を満足していました。」とあるが、「環境基準を満足する」という表現は市民にとっては分かりにくい。	本市において、これまでも公表文書・資料等で同様の表現をしておりますので、現状のとおりといたします。	—
7	P 1 0	提案	「④土地利用」の右側5～6行目「山林面積は維持されているものの、管理状況が悪化しており」とあるが、詳しい説明が必要では。 （例） 山城町と加茂町では竹藪が広がり、天井川にまで進出して、枯れ竹が覆いかぶさるような箇所もある。	次のとおり修正いたしました。 （修正前） 「山林面積は維持されているものの、管理状況が悪化しており」 ↓ （修正後） 「山林面積は維持されているものの、 <u>放置竹林が増加するなど</u> 、管理状況が悪化しており」	○

N0	該当ページ	種別	ご意見内容	市の考え方	反映																																								
8	P 1 0	提案	コラム 2－②について、木津川の特性を書く必要があるのでは。 (例) 木津川は砂河川のため河川敷も堤防も砂で形成され、砂に適応する生態が広がっている。 40 種類を超える水生生物がいて、コイ、ニゴイ、アユ、オイカワとともに砂地を好むカマツカ、ヨシノボリ、スッポンなどが多いのも特徴である。 植物では、砂地を好むカワラナデシコ、カワラサイコ、レンリソウ、オオバクサフジ マキエハギ、竹やぶではキツリフネソウ、ウラシマソウなど。 また、「堤防の改修や気候変動により、(略)これらの植物が消えていく危機にある」とあるが、木津川への特定外来生物（コクチバス、ヌートリア）が増加していることも追記し、「これらの生物が消えていく危機にある」としてはどうか。	スペースの関係で現状のとおりといたします。 なお、特定外来生物についてはコラム 2－①に記載しております。	—																																								
9	P 1 1	意見	「⑤電気・都市ガスの使用量…」について、防犯灯の L E D 化は平成 30 年度事業ではないか。図表 2－1 4 「電灯・電力の需要状況」が平成 27 年度までとなっているが、直近の数値は。	平成 28 年度以降は関西電力(株)から数値を提供いただいております。 本文を修正するとともに、図表 2－1 4 に注釈を追記しました。 (修正前) 本市の電灯・電力の需要状況は、防犯灯の L E D 化などにより、減少傾向が見られます。平成 2 7 年度時点で 161,973MW h となっています。 ↓ (修正後) 本市の電灯・電力の需要状況は、減少傾向が見られ、平成 27 年度時点で 161,973MW h となっています。また平成 30 年度には市内防犯灯の L E D 化により節電や CO2 の削減を図りました。 (修正後 図表 2－1 4) 図表 2-14 電灯・電力の需要状況 (単位：MWh) <table><tr><th></th><th>H 19</th><th>H 20</th><th>H 21</th><th>H 22</th><th>H 23</th><th>H 24</th><th>H 25</th><th>H 26</th><th>H 27</th></tr><tr><td>電灯</td><td>149,589</td><td>150,290</td><td>152,141</td><td>164,172</td><td>159,789</td><td>158,019</td><td>157,423</td><td>151,134</td><td>149,114</td></tr><tr><td>電力</td><td>18,524</td><td>17,139</td><td>16,210</td><td>16,323</td><td>15,247</td><td>14,845</td><td>14,994</td><td>13,714</td><td>12,859</td></tr><tr><td>合計</td><td>168,113</td><td>167,429</td><td>168,351</td><td>180,495</td><td>175,036</td><td>172,864</td><td>172,417</td><td>164,849</td><td>161,973</td></tr></table> ※MWh未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。資料：木津川市統計書 ※特定規模需要を除く。なお、電灯には街路灯の他、家庭・商店・事務所・飲食店などで使用する照明電気機器、小型機器で使用する電気需要を含む。 ※H28年度から電力自由化により、関西電力(株)からのデータ提供休止。		H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	電灯	149,589	150,290	152,141	164,172	159,789	158,019	157,423	151,134	149,114	電力	18,524	17,139	16,210	16,323	15,247	14,845	14,994	13,714	12,859	合計	168,113	167,429	168,351	180,495	175,036	172,864	172,417	164,849	161,973	○
	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27																																				
電灯	149,589	150,290	152,141	164,172	159,789	158,019	157,423	151,134	149,114																																				
電力	18,524	17,139	16,210	16,323	15,247	14,845	14,994	13,714	12,859																																				
合計	168,113	167,429	168,351	180,495	175,036	172,864	172,417	164,849	161,973																																				

N0	該当ページ	種別	ご意見内容	市の考え方	反映
10	P 1 1	意見	「⑤電気・都市ガスの使用量…」について、環境の森センター・きづがわの発電電力に関して「電力の地産地消を推進することも必要です。」とあるが、市の公共施設のなかでは電力の地産地消の象徴だと思われるので、もっとアピールすべきでは。	環境の森センター・きづがわの発電電力については、今後も地産地消に努めます。	—
11	P 1 5	提案	「③環境等活動を行っている NPO 等に対するアンケート結果概要」について、各団体の高齢化により、環境パートナーシップ会議を作ることが困難である。木津川市から活動費を補助している団体は強制参加するなど、できるところから交流から始めたらどうか。それが無理なら環境まつりに参加している団体との会議を充実させて交流の時間を増やすことが必要である。	環境パートナーシップ会議は、情報交換や行政との協働を進めるための場であり、強制参加とするものではなく、自主的に参加いただくものと考えております。	—
12	P 1 8	意見	3つ目の見出し「市民一人ひとりの人間を大切にする視点」について、見出しと本文中に「一人ひとりの人間を大切に」という表現があり違和感がある。	ご意見を踏まえ、次のとおり修正しました。 見出し (修正前) 「市民一人ひとりの人間を大切にする視点」 ↓ 「市民一人ひとりを大切にする視点」 本文 (修正前) 「一人ひとりの人間を大切に」 ↓ (修正後) 「市民一人ひとりを大切に」	○
13	P 1 9	意見	左側 3 行目に「環境保全と創造を図り」とあるが、「創造」は不要ではないか。「環境の創造」が意味するものは。	ご意見を踏まえ、次のとおり修正しました。なお、「環境の創造」は、豊かな環境をつくることを指します。 見出し (修正前) 「木津川市の環境保全と創造に関する基本理念と環境未来像」 ↓ (修正後) 「木津川市の環境の保全と創造に関する基本理念と環境未来像」 本文 (修正前) 「環境保全と創造を図り」 ↓ (修正後) 「環境の保全と創造を図り」	○

N0	該当ページ	種別	ご意見内容	市の考え方	反映
14	P 2 6	提案	「①廃棄物減量の推進」について、一人暮らしの方が亡くなって空き家が増えている今、思い出の品をゴミに出しにくい方、逆に使用品でも使いたい方もいるので、リサイクル研修ステーションのような施設が必要である。 旧山城町給食センターをリサイクルセンターに利用できないか。	不用品のリユースについては民間のリサイクルショップ等の活用をお願いしているところです。なお旧山城町給食センターの今後の利用については市全体での検討事項です。	—
15	P 2 6	提案	「①廃棄物減量の推進」の3つ目の見出し「プラスチックごみの削減」について、プラスチックごみを燃やして熱エネルギーに変えるというのはCO2が増えることにはならないのか。 やはり徹底的なリサイクルが必要であり、日本が出したごみは日本で再生し、ゴミの輸出はしない、そのためのリサイクル企業を日本に増やすという方向を政府に働きかけることも必要では。	プラスチックごみについては、まずは2Rの取組によりCO2の削減を進めております。その上で、廃棄処分する場合はプラスチックごみを単純に埋め立て処分するのではなく、熱エネルギーとして活用するサーマルリカバリーの取組みも行っています。	—
16	P 2 8	意見	ダンボールコンポストの取組みも大切であるが、バイオマス発電の推進をしてほしい。 山や竹藪、庭木の伐採をした際、燃やすよりエネルギー資源として利用すれば、放置竹藪などの整理も進むのでは。	バイオマスの活用についてはP 2 4にも記載しておりますが、いただいたご意見も参考として、森林の整備・保全に向けたバイオマス発電をはじめとした活用方法については今後の課題といたします。	—
17	P 3 1	提案	コラム3－⑥と3－⑦について、地域連携保全活動応援団と木津川を美しくする会の写真が掲載されているが、上粕川クリーン作戦(ジャンボタニシ駆除・生き物調査・水質調査)の写真を掲載してはどうか。	スペースの関係で現状のとおりといたしますが、今後の環境保全活動の際に参考といたします。	—
18	P 3 3	意見	「④化学物質のリスクと情報提供」について、文末に『『子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)』の協力・支援に取り組めます。』とあるが、すでに参加しているのでは。	ご意見を踏まえて次のとおり修正しました。 (修正前) 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の協力・支援に取り組めます。」 ↓ (修正後) 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の協力・支援に平成22年度から取り組んでいます。」	○
19	P 3 5	質問・提案	管理指標の「環境活動団体等による環境学習の参加者数」は、「くるっと」(木津川市廃棄物減量等推進員の会)や「こどもエコクラブ」の環境学習以外をカウントしているのか。 サン・フォレスター山城、河川レンジャー、加茂ふる里案内人の会などでも小学生向けの環境教育を行っているので、カウントしてはどうか。	管理指標に用いているのは「くるっと」と「こどもエコクラブ」の参加者数のみです。管理指標については今後見直しを行います。	—
20	P 3 6	提案	【主な取り組み】の1つ目に「保育園・幼稚園・小学校等における環境教育の支援」とあるが、準備に多大な時間を使うためボランティアで行っているといつか不満が出てくる。教育委員会と連携してわずかの謝礼でもいいのですべきだと思う。	今後の環境教育の充実に向けて検討いたします。	—